

平成 31 年 4 月 18 日

教 育 長 様

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">研究コース</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">グループ研究 A</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">校園コード（代表者校園の市費コード）</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">542090</td></tr> </table>	研究コース	グループ研究 A	校園コード（代表者校園の市費コード）	542090	<p>代表者 校園名： 大阪市立春日出中学校</p> <p>校園長名： 本田妙子</p> <p>電 話： 6468-7371 F A X： 6468-6496</p> <p>事務職員名： 阪元勇斗</p> <p>申請者 校園名： 春日出中学校</p> <p>職名・名前： 岩城実里・神近篤志</p> <p>電 話： 6468-7371 F A X： 6468-6496</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">校印</div>
	研究コース					
	グループ研究 A					
	校園コード（代表者校園の市費コード）					
542090						

## 平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	<b>便利な道具としてICTを使いこなせる生徒を育成する授業の研究 ～教員各自の授業でのICT活用能力を高める研究～</b>			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○ICTを効果的に活用した授業デザインの探求、教員の指導力の向上。      ○学習意欲、基礎学力の向上を図るために効果的なICTの活用法。      ○生徒のICT活用力を向上させるための全教育活動内での工夫や方法。      ○ICTの操作方法や活用等についての組織的な情報共有方法の確立。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>30年度秋に、校内WIFI環境が整い全普通教室にプロジェクターを設置できたので、タブレットを活用した校内研究授業を実施し、研究協議の場で全教員がタブレットに対する理解を深めることができた。その結果、ICT機器は特別なツールではなく「便利なツール」であることが実感され、ベテラン教員に見られた苦手意識も一定、払しょくはされている。</p> <p>しかし、現在の中学生が社会へ出る時代には職業のいくつかは、「AI」の仕事に代わり、「人」に残された仕事でも多くはICT機器を使いこなさなければ成り立たなくなることが予想される。そのため、教員世代の想像をはるかに超えたICTスキルが必要である。「ICTを自在に使いこなせる大人」になるために、まず、義務教育段階で「適切な場面で適切に使う」授業を受け、さらに発展して自分で「考えて使う」体験をさせることをめざす。</p> <p>現在、まだ研究の緒に就いたところであり、効果的な活用、使いこなせる生徒の育成という点において、さらに深く研究する必要があり、今年度はICT支援員の定期的訪問支援も申請している。また、日常的に授業で利用する美術室に、新たにプロジェクター等を整備し、指導方法の研究を推進するとともに、サポートクラス（特別支援学級）の生徒へのICTを活用した指導法の研究を推進する。「習うより慣れろ」で自在に活用するためには、定期的に更新されるタブレットについての操作環境等も、継続して共通理解するしくみが必要である。</p> <p>以上より、31年度は、「それぞれの教科（学級）の学びの効果を上げる」「未来を生きる生徒たちが使いこなせる」ICTの活用という観点で以下の4点において研究を進めます。</p> <p>①各教科（学級）の学びの特性にあった単元、題材、場面での「効果的な」ICT機器の活用方法      ②基礎学力の定着・自学自習の習慣や意欲づけにつながるICT機器の活用方法      ③校内諸活動で、プレゼン作成など生徒がICT機器を活用できるスキルの養成・場の研究      ④ICT機器の活用について、校内で「だれでも・いつでも・どんなことも」情報交換しあえるしくみ（春日出ガイド作成等）づくり</p>			

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。				
5	活動計画	<p>4月 ICT活用に関する昨年度の課題、今年度の活用に関する方向性の検討 新転任教員への校内ICT環境、機器等についての研修会（4月14日済み） ICTハンドブック（教育センター作成）の周知</p> <p>6月 生徒・教員へのアンケート①（実施と分析） 「春日出ICT活用ガイド（仮）」作成会議①</p> <p>8月 「春日出ICT活用ガイド（仮）」作成会議②</p> <p>10月～12月 研究授業・協議①（ICTの活用という視点で） ICT実践校の授業参観（先進的な実践校に学ぶ）</p> <p>11月 全国大会参加（先進的な実践校に学ぶ・全教員に報告）</p> <p>12月 ICT活用研修会（ICT支援員またはICT教育推進アドバイザー招へい） 「春日出ICT活用ガイド（仮）」作成会議③</p> <p>2月 「春日出ICT活用ガイド（仮）」の完成 研究授業・協議②/研究発表 生徒・教員へのアンケート② (成果と課題、アンケート①との比較等の考察、次年度に向けて)</p>				
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>○ICTの効果的な活用について研究を進めることにより、生徒の学びへの意欲を喚起する。 【検証方法】活動の事前と事後でのアンケートにより、学習への「関心・意欲」にかかる項目で5ポイント上昇させる。</p> <p>○ICTの効果的な活用について研究を進めることにより、「より理解しやすい授業」について検証する。 【検証方法】活動の事前と事後でのアンケートにより、学習への「理解」にかかる項目で5ポイント上昇させる。</p> <p>○授業でICT機器を活用する機会を昨年度以上に増やすことで、生徒のスキルを上げ、生徒自身が諸活動（校内外、地域との連携）で使いこなす。 【検証方法】ICTを活用した諸活動で、昨年までの活動と比較する事後アンケートをとり、「関心・意欲・達成感」の上昇を図る。</p> <p>○「春日出ICT活用ガイド（仮）」の作成により、教員が「ICTの活用」について前年度以上の知識を身に着け、さらに専門的なスキルを習得する。 【検証方法】教員アンケートで「ICT機器を効果的に活用した授業デザインができる」に肯定的な回答をする教員を8割以上にする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（2020年2月25日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和2年2月21日</td> <td>場所</td> <td>春日出中学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和2年2月21日	場所	春日出中学校
日程	令和2年2月21日	場所	春日出中学校			
8	代表校園長のコメント	ICTの活用について若手教員を中心に一定理解は進んでいる。授業改善と基礎学力の定着、さらに生徒の学習意欲、ICTスキルの向上に向けて、ぜひとも研究を継続したい。「春日出ガイド（仮）」を作成することで、ベテラン教員にもICTになじみ、「得意な先生」、「苦手な先生」でなく、全教員が一定のスキルを獲得することができると考えている。その結果、授業等にとどまらず、当たり前のように校内外でICTが有効に活用されることを期待している。				